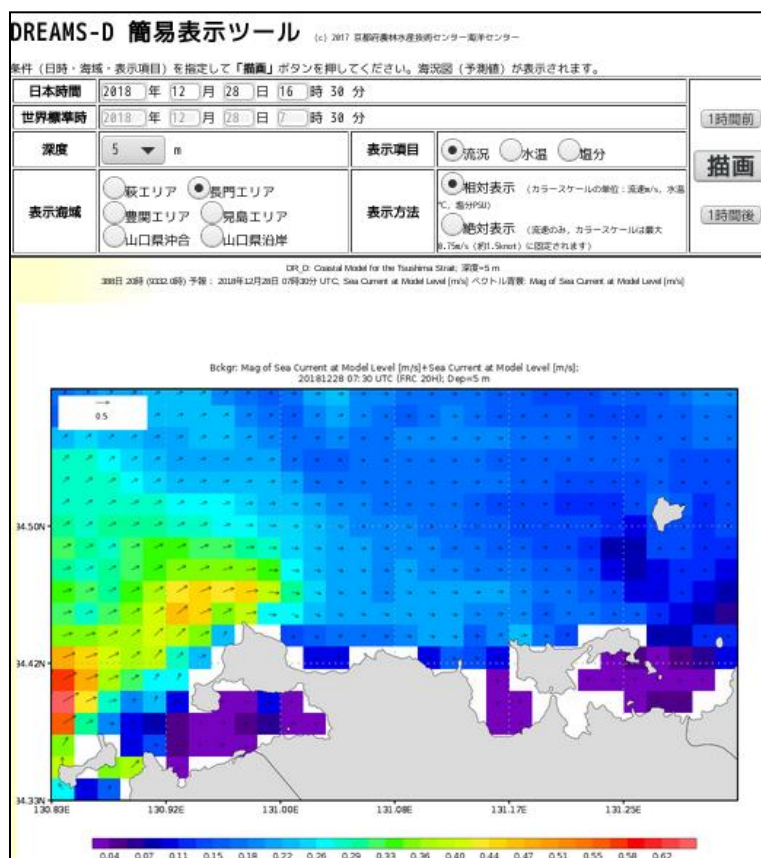


海況予測情報の提供をはじめました

今年度、九州大学応用力学研究所および京都府農林水産技術センター海洋センターの協力を得て、山口県日本海側を対象範囲とした山口県版「DREAMS」（海況予測モデル）を作成しました。（URL：<http://yama-gaikai.xsrv.jp/dreams-d/dreams-d.html>）

「DREAMS」は九州大学応用力学研究所が中心となり開発した海況予測システム（<http://dreams-c.riam.kyushu-u.ac.jp/vwp/>）で、深度別の海況（流況、水温、塩分）が1時間ごとに3日先まで予測されています。



◎目次

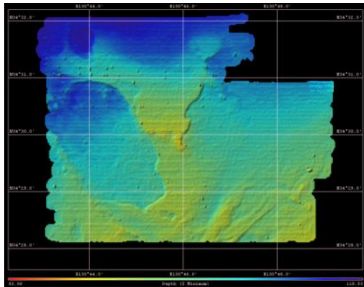
- | | | |
|-----------------------|----------------|-------|
| ◇海況予測情報の提供をはじめました | <外海研究部海洋資源グループ | 廣畑二郎> |
| ◇クエの漁場調査をはじめました | <外海研究部海洋資源グループ | 廣畑二郎> |
| ◇超簡単！？キジハタの蓄養 | <外海研究部増殖加工グループ | 南部智秀> |
| ◇ワクチン接種講習会を開催 | <内海研究部増殖病理グループ | 安成 淳> |
| ◇標識を付けたハモを放流しました | <内海研究部海洋資源グループ | 國森拓也> |
| ◇全国湖沼河川養殖研究会第91回大会を開催 | <企画情報室 | 渡邊 直> |

クエの漁場調査をはじめました

近年、山口県日本海側ではクエの漁獲量が増加しています。クエを対象とした操業（アラ縄）を行う漁業者も急増しており、今後、漁場競合や資源の減少が懸念されます。そこで、水産研究センターでは有用漁場の開拓を目的に、漁場形成要因の解析や未利用漁場の調査を開始しました。

アラ縄の標本船日誌を解析した結果、クエは主に水深50m以浅の沿岸域で漁獲されており、漁獲場所における8月～12月の底層水温は16.9℃～24.3℃でした。また、標本船日誌および聞き取り調査から水深100m以深の海域は漁場としてほとんど利用されていないことが分かりました。

未利用漁場の調査は、主に水深100m以深の天然礁において、調査船による試験操業や海底地形調査を行っています。



海底地形図（水深100m以深の天然礁）



クエ

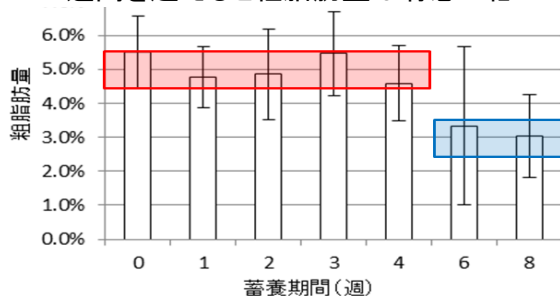
超簡単！？キジハタの蓄養

昨今、県内では期間限定フェアなどでキジハタ料理を提供する飲食店が見られるようになりました。キジハタは一度にたくさん獲れる魚ではありませんので、いつ注文が入っても料理を提供できるよう、予め入手した魚を水槽に溜めて活かしておく、つまり「蓄養」がとても有効な手段になります。この蓄養をいかに手をかけずに簡単にできないかと考えてみました。すなわち、餌を全く与えない状態で、脂（粗脂肪量）や旨味（アミノ酸）を保つことができる期間を調べてみました。

その結果、およそ1ヶ月以内であれば餌を与えなくても脂の乗りと旨味を漁獲直後と変わらないレベルで維持できることが明らかになってきました。

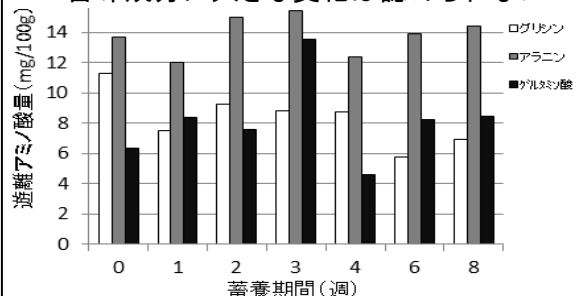
今後、さらに研究を重ねて、データを検証する必要がありますが、蓄養で大量のキジハタを管理できるようになれば、価格向上や安定供給、販路の拡大も期待でき、ブランド化をさらに強く推し進めることが可能になります。

6週間を超えると粗脂肪量は有意に低い



蓄養期間と粗脂肪量の推移

旨味成分に大きな変化は認められない



蓄養期間中の遊離アミノ酸量の変化

ワクチン接種講習会を開催

平成30年10月16日（火）下松市栽培漁業センターにおいて、ワクチン接種講習会を開催しました。

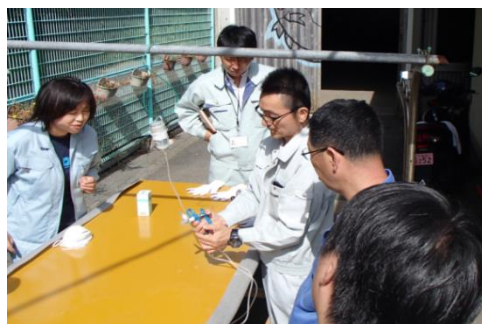
近年、抗菌剤の不適切な使用を背景に薬剤耐性菌による感染症が世界的に拡大し、国際社会においても大きな問題となっており、水産分野では、平成30年1月、水産用抗菌剤の取り扱いが見直され、病気を予防できるワクチンの普及が求められました。

このため講習会では、ワクチンに関する全般講義に加え、注射によるワクチン接種技術の理解と習得のため、ヒラメを使ったワクチン接種の実習を行いました。

今後も、水産用医薬品の適正使用と食品などに残留するおそれが高い安全な水産物を養殖できるワクチンの普及に努めてまいりますので、よろしくお願いします。



講習会風景



実習風景

標識を付けたハモを放流しました

ハモを放流しました



標識の付いたハモが獲れたらご連絡ください

標識番号・日時・漁法・位置・魚体の重さ等をお伺いします

《連絡先》

山口県水産研究センター 内海研究部 國森
TEL:083-984-2116 FAX:083-984-2209

放流時期:2018年10月 放流場所:山口県防府市沖

ハモは本県では主に瀬戸内海域の小型底びき網漁業や延縄漁業により漁獲され、夏期の主要な対象種の1つとなっていますが、その生態については不明な点が多くあります。

水産研究センターでは、ハモ資源に関する基礎的な知見を得ることを目的として、これまでに本種の成熟や年齢組成などを継続的に調査してきました。

今回は新たに、移動生態を把握するため、2018年10月に左図のように赤い円盤状のタグを装着したハモ500尾を防府市沖に放流しました。見つけた方は内海研究部までご連絡ください。

なお、この標識放流調査は2019年度も実施する予定で、年毎に移動の傾向を比較することで、移動の要因（たとえば水温やエサの分布等）を推定したいと考えていますので、引き続き、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いします。

全国湖沼河川養殖研究会第91回大会を開催

平成30年9月20、21日、山口市翠山荘において全国湖沼河川養殖研究会第91回大会を開催しました。この研究会は内水面における水産増養殖事業に関する科学的調査研究を推進することにより、内水面の発展向上を図ることを目的としています。

今回は、本県が提案した「水産生物の生息環境保全と21世紀の内水面－水辺の小わざ・河川生態系の連続の復元－」をテーマに研究会の会員となっている各県の研究機関をはじめ、関係機関や県内の内水面関係者62名が参加して発表と意見交換が行われました。

1日目は、シンポジウムと中心課題関連の研究発表が行われ、話題提供として内海研究部の畑間専門研究員が「内水面にとっての河川連続性とは～25年間の河川調査から～」、榎野川漁業協同組合の田中業務部長が「山口県榎野川漁協の取り組み～地域社会と一体となった内水面漁協を目指して～」を発表しました。2日目は、研究活動報告と中心課題関連以外の研究発表が行われました。

今回の研究報告や活発な意見交換で得られた貴重な成果を内水面振興に役立てたいと考えています。



大会風景



研究討議



畑間専門研究員の発表



田中業務部長の発表

編集・発行 山口県水産研究センター企画情報室
外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3
電話0837-26-0711 email:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp
内海研究部 〒754-0839 山口市秋穂二島437-77
電話083-984-2116 email:a16403@pref.yamaguchi.lg.jp